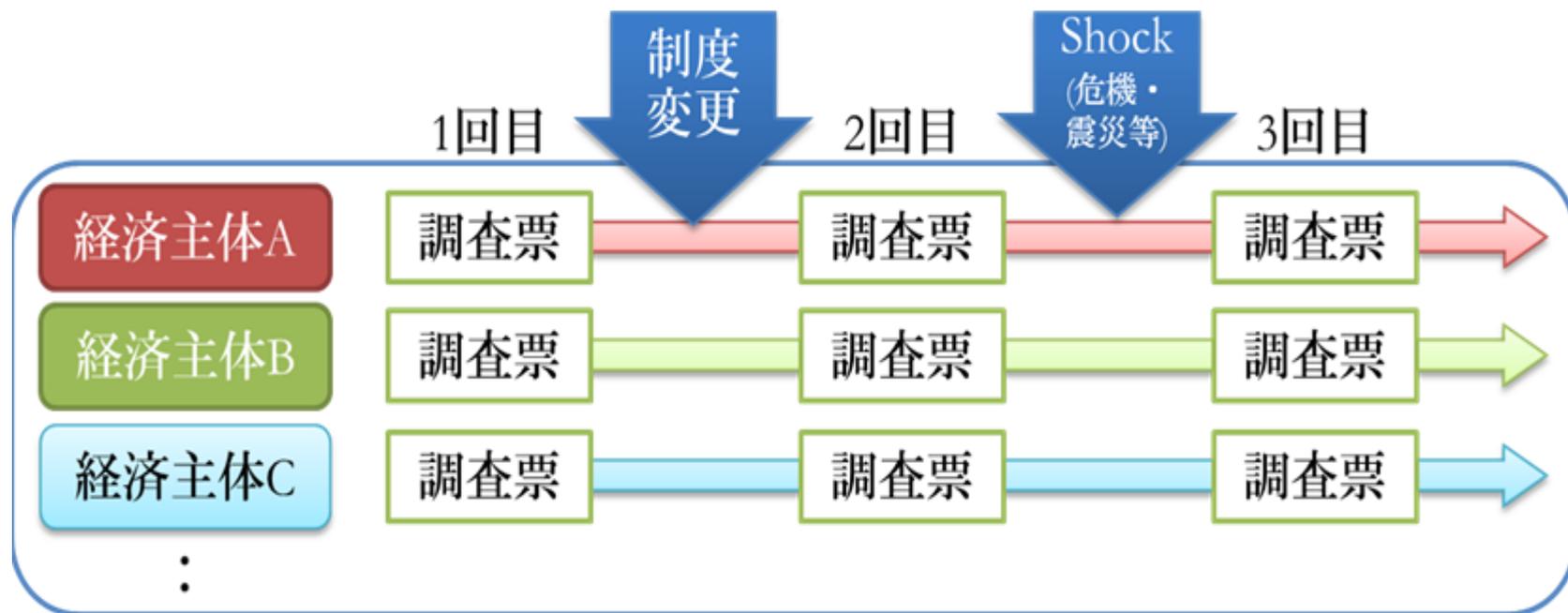


「日本博士人材追跡調査」
「博士人材データベース」
で何ができるか

慶應義塾大学 樋口美雄

パネルデータは擬似実験を可能に

同一主体の行動変化を追跡したパネルデータの概要



調査項目

調査票の構成

Part1. 基本項目

Part2. 博士課程について

Part3. 仕事について

A. 就業状況

B. 職業について

働いていない C. 雇用先について

D. 仕事に関する意識

アカデミアでない人 E. 大学・公的研究機関等の仕事について

Part4. 研究状況

研究をしていない (研究をしている人)

Part5. 人口学的情報

Part6. 調査に関する意見

Part1	大学院・研究科名
	学士号取得大学
	研究分野
	博士課程 在籍期間
Part2	学位取得, 学位取得年月
	日本学術振興会DC, PD
	奨学金, 借入総額
Part3	学費の免除
	求職方法
	労働日数・時間
	総収入・労働収入
	雇用主の経営組織、規模
	雇用主の組織規模
	雇用形態
	学位と仕事の関係
Part4	仕事の満足度、処遇の満足度
	アカデミアの勤務先・職階・任期
Part4	科研費, その他の競争的資金
	論文数、質、特許、実用新案
Part5	世帯主との関係、世帯人数
	婚姻上の地位、子ども数
Part6	集計結果の希望
	自由意見

奨学金・各プログラムの効果分析

- ▶ 奨学金やリーディング大学院プログラム等の実施は、就職率を上げているのか
- ▶ インターンシップの実施や職業経験は、研究者としてのキャリア形成に有益か、成果は上がるのか
- ▶ 任期有り雇用は、任期なし雇用へのステップ・ストーンか、それともデッド・エンドか
- ▶ 各種プログラムの実施は、研究成果の向上に役立っているのか、それとも・・・
 - 投資か消費か
- どうやれば、成果をあげられるのか

A大学の卒業生が就職で有利なのは、
A大学の教育がよいからか、もともとA大学に優秀な
学生が来るからか

▶ 社会現象と実験室の実験の違い

→コントロール実験はできない

- もともと優秀な学生が奨学金を受給したり、各種のプログラムに参加している可能性
- もともとの学生の質をコントロールした、ネットのプログラムの効果を見なければならない
- どういう学生が博士課程に入学しているか
- 最近の「計量経済学」の発展は、教育の純粹効果を把握可能に

博士人材を受け入れている、どのような企業や大学で成果は上がっているか

- ▶ 博士課程修了者のその後を追うことによって、受け入れ組織の在り方についても、検討が可能に
- ▶ 高度専門人材が活躍できる企業環境・研究環境について検討し、人事制度の在り方についても検討
- ▶ シリコンバレーVSボストン・ルート128地区
- ▶ 企業の知的所有権保護VS転職の自由

①どのような学生が博士課程に来ているか

②博士課程修了者のその後のキャリアは、修士課程修了者とどう違うか

- ▶ 修士課程からのパネル調査の必要性
- ▶ 学生特性をコントロール